

人口・世帯・住宅

■人口・世帯・1世帯あたり人員の推移

- 令和2年の人口は148,606人、世帯数は73,078世帯であり、人口は平成17年以降、世帯数は平成2年以降において増加傾向にある。
- 1世帯あたりの人員は平成2年の2.83人/世帯から令和2年には2.03人/世帯へと減少している。
- 世帯の型別世帯数の推移をみると、夫婦のみ世帯や単独世帯は大きく増加し、ひとり親+子世帯も増加している。一方、夫婦+子世帯やその他親族世帯（3世代世帯）は減少している。

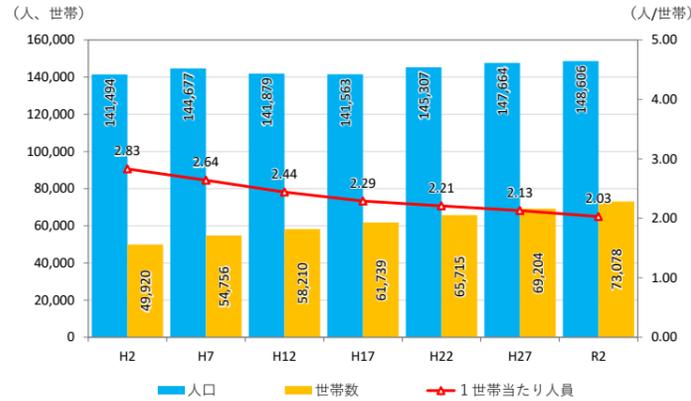


図 人口・世帯・1世帯あたり人員の推移  
出典：住民基本台帳（平成2年～令和2年 各年10月1日現在）

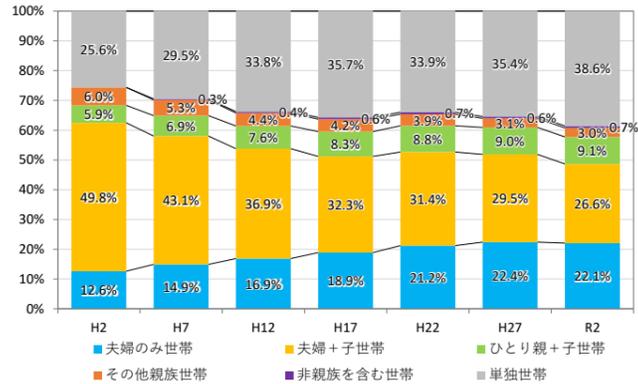


図 世帯の型別世帯数割合の推移  
出典：総務省統計局「各年 国勢調査結果」（平成2年～令和2年 各年10月1日現在）

■年齢3区分別人口の推移

- 老年人口割合は29.0%と、周辺市の中で最も高く、年少人口割合は11.3%と、八王子市に次いで2番目に低い。

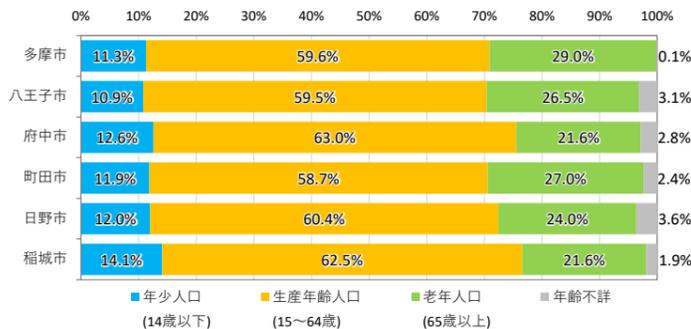


図 周辺市の年齢3区分別人口の割合（令和2年）  
出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

■自然動態・社会動態の状況

- 自然動態は、平成25年から自然減で推移しており、社会動態は各年ばらつきがあるものの、平成25年以降は概ね社会増で推移していたが、令和4年は社会減に転じている。

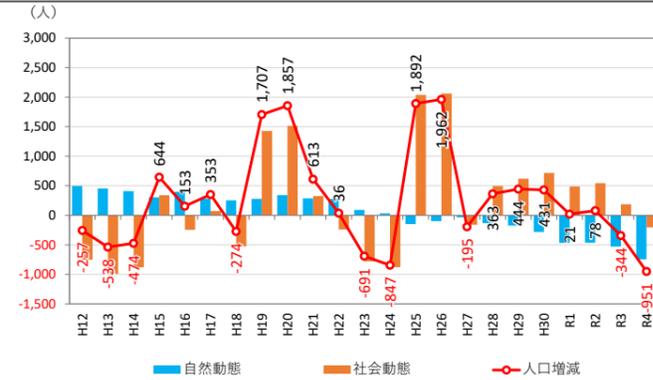


図 周辺市の年齢3区分別人口の割合（令和2年）  
出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

■将来人口

- 将来人口は、令和2年以降、一貫して減少傾向で推移し、約14.7万人（R2）から約12.2万人（R27）になると予測されている。
- 年齢3区分別でみると、年少人口、生産年齢人口は減少すると予測される一方、老年人口は、約4.3万人（R2）から約5万人（R27）へ増加し、総人口の40.7%占めると予測されている。

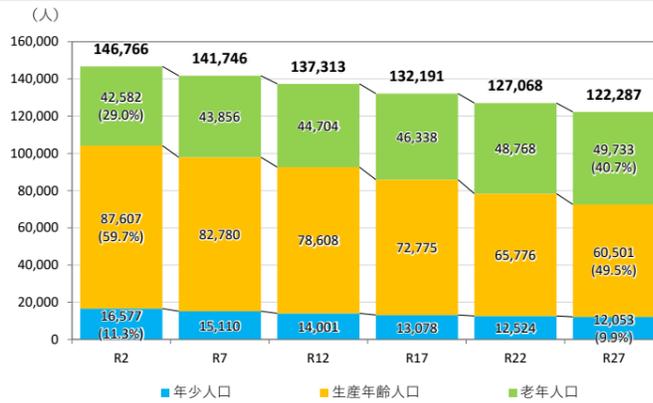


図 将来推計人口  
出典：国立社会保障・人口問題研究所（令和2年は国勢調査）

■住宅総数

- 住宅総数は、平成10年以降、増加傾向で平成30年は74,170戸となっているが、近年は増加が鈍化している。

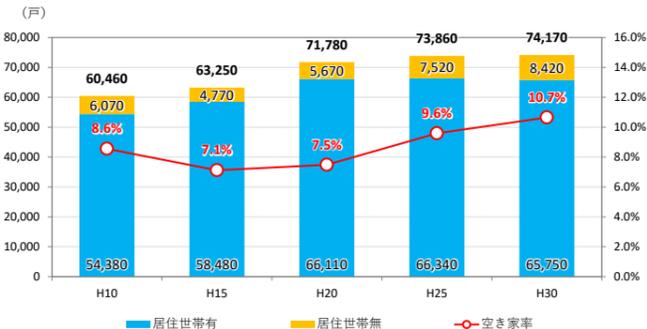


図 住宅総数と空き家率  
出典：総務省統計局「住宅・土地統計調査」

産業・商業

■事業所数・従業者数の推移

- 事業所数は、平成3年以降、緩やかに増加傾向で推移し、3,064事業所（H3）から3,611事業所（R3）となっている。
- 従業者数も、事業所数と同様の傾向で、66,931人（H21）のピークから若干減少し、65,480人（R3）となっている。

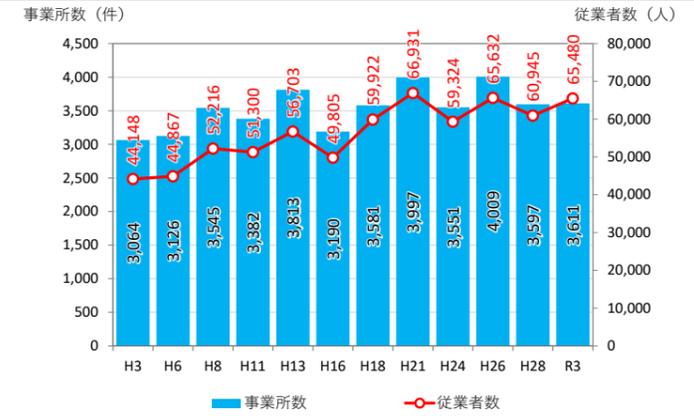


図 事業所数・従業者数の推移  
出典：総務省統計局「事業所統計調査」、経済産業省「経済センサス（基礎調査、活動調査）」

■商店数・従業者数・年間商品販売額

- 商店数・従業者数・年間商品販売額は、平成24年以降増加している。

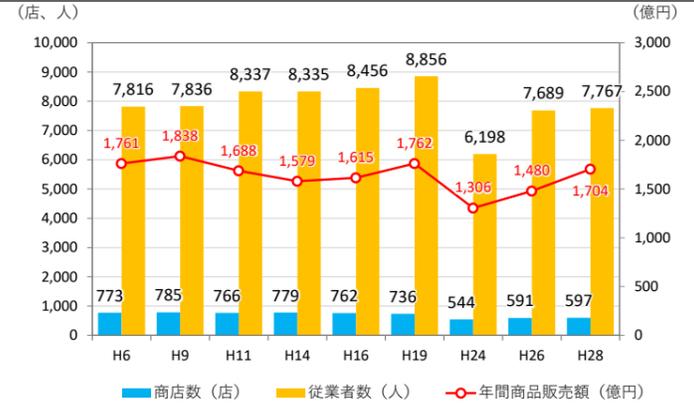


図 商店数、従業者数、年間商品販売額の推移  
出典：商業統計、経済産業省「経済センサス（活動調査）」

■通勤・通学流動

- 東京23区への通勤者数は、25,435人（H7）から17,024人（R2）で大きく減少している一方、多摩地域から多摩市への通勤者数は18,580人（H7）から22,686人と大きく増加している。

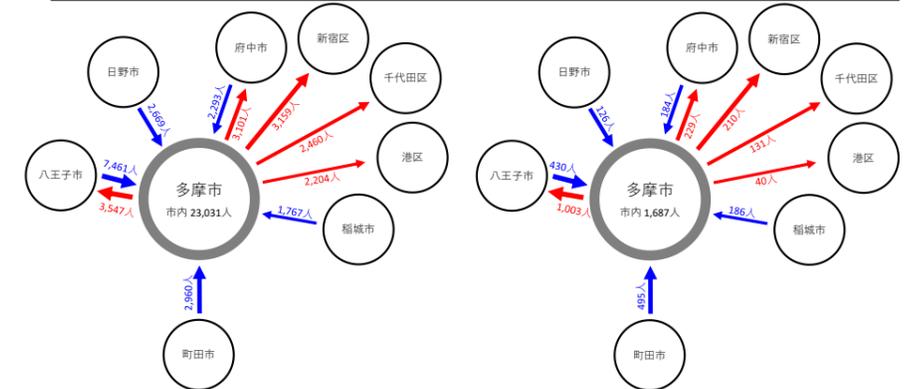


図 通勤・通学流動図  
出典：総務省統計局「令和2年国勢調査」

# 多摩市の現状

## 土地利用等

### ■用途地域

- 駅周辺や幹線道路沿いに商業用地が集積しているが、市域全体の約6%であり、市域の多くは住居系の用途地域が指定されている。

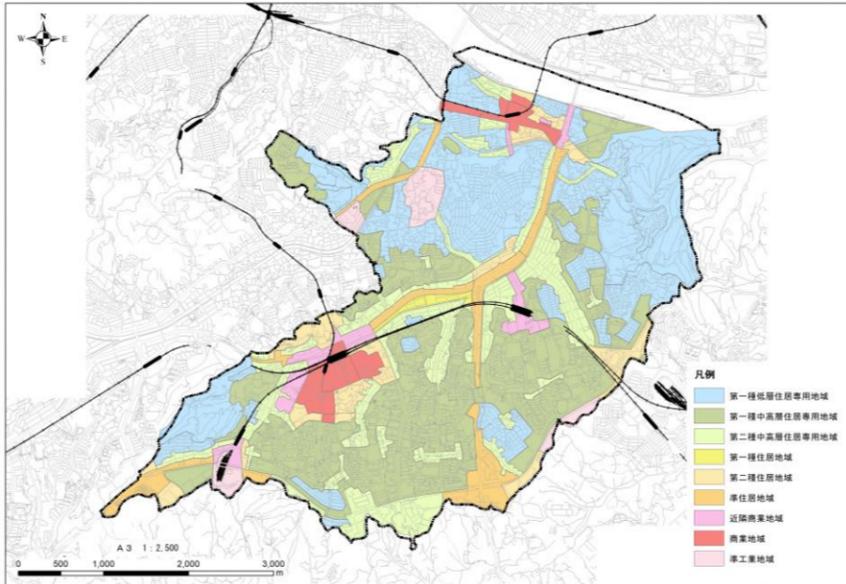


図 用途地域

出典：多摩市都市計画情報

### ■建物構造

- 防火造の建築物が市の半数を占めており、ついで準耐火造が多くなっている。
- 市南部は集合住宅を中心に耐火構造の建築物が多いものの、市北部では独立住宅を中心に防火造、木造の建築物が多くなっている。

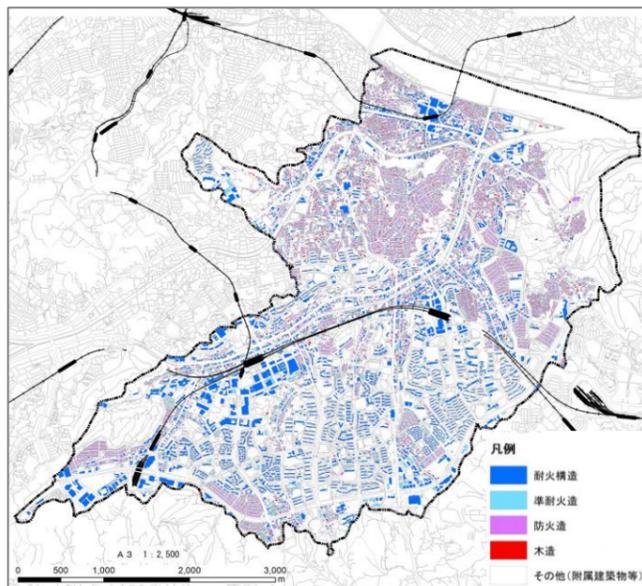


図 建物構造

出典：平成29年土地利用現況調査

## 道路・交通

### ■鉄道

- 多摩市内の鉄道は、4路線7駅あり、令和3年の1日当たりの乗降数の合計は約25万人となっている。
- 平成23年以降は増加傾向で推移していたが、令和2年の新型コロナウイルス感染拡大の影響により大きく減少し、令和3年は若干回復している。

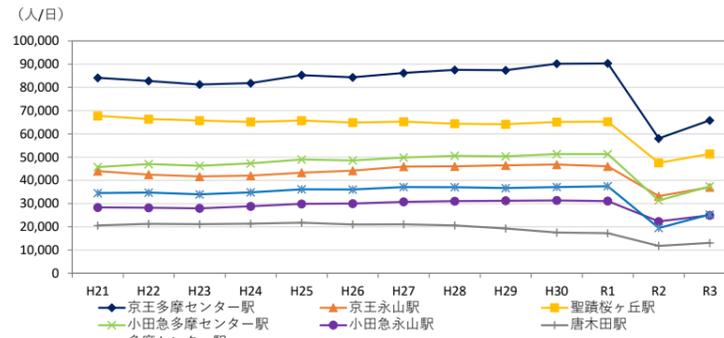


図 市内7駅の1日当たり平均乗降客数の推移

出典：鉄道会社の資料より作成

### ■鉄道

- 多摩市内には、路線バスが66系統、ミニバスが4系統運行しており、聖蹟桜ヶ丘駅から永山駅、多摩センター駅を結ぶ路線が多くなっている。

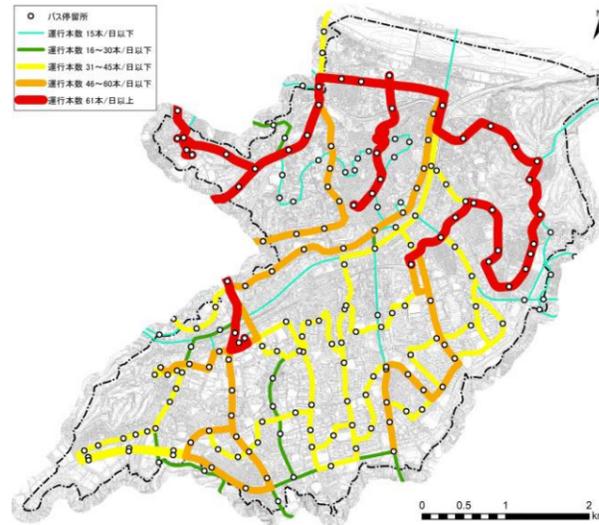


図 市内路線バス・運行本数図（区間別）

出典：都市計画基礎調査

## 防災

### ■洪水・土砂災害

- 洪水被害については、多摩川や大栗川の沿線に加え、多摩川と大栗川に囲まれた聖蹟桜ヶ丘駅周辺において、浸水想定が3mを超え、被害が大きくなることが想定されている。
- 土砂災害については、造成等が行われた多摩ニュータウン地区では、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域は少ないものの、それ以外の地域では、これらの区域にかかる地域がある。

※詳細な区域については「多摩市洪水・土砂災害ハザードマップ」を参照

## 水・みどり

### ■生産緑地

- 生産緑地地区は、市全域で約26.7ha指定されており、小田急多摩線以北で多く指定されている。

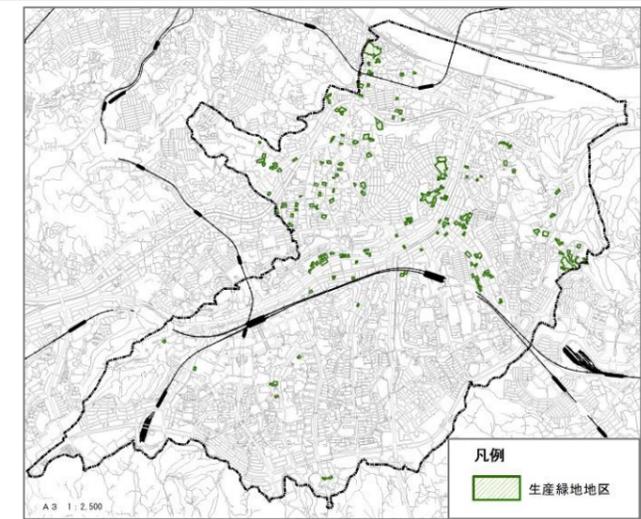


図 生産緑地地区指定状況（令和4年3月時点）

出典：多摩市都市計画情報

### ■都市公園・緑地

- 多摩市の都市公園は162の公園と、46の緑地をあわせて208公園緑地がある。
- 市民一人当たりの都市公園面積は16.13㎡と、多摩都市部（奥多摩町、檜原村、瑞穂町、日の出町を除く）の平均7.06㎡を大きく上回る。



図 都市公園・緑地

出典：多摩しみどりの基本計画

表 都市公園・都市緑地

区分	個所数	面積(㎡)
総合公園	3	285,504.01
地区公園	1	11,586.69
近隣公園	25	651,545.93
街区公園	133	412,925.63
都市緑地	46	651,960.47

出典：多摩市の公園一覧データ